

設立30周年の新冠ほくと園が 町内の福祉施設にお菓子を贈呈



3月28日、社会福祉法人新冠ほくと園（湯沼博理事長）は、法人設立30周年を記念し、スイーツマルシェみをとの焼き菓子280個を寄贈しました。

寄贈は、特別養護老人ホーム恵寿荘やグループホームゆーあい天馬など、町内の社会福祉施設6事業所に対して行われ、湯沼理事長は「みんなで食べて、笑顔になつてもらいたい」と話されました。

レ・コード館展望塔に

喫茶店がオープン



4月1日、レ・コード館の展望塔に喫茶店「クラウドナインカフェ」がオープンしました。公募・選考で決定した運営者の㈱ノードネットワークスは、のんびりとした展望塔の雰囲気と、同社の強みであるデジタル技術を活かした特徴的な店づくりを行っています。浅川和基代表は「町内の方にも足を運んでいただき、町の良さを再発見してほしい」と話されました。

外出機会増える春

交通安全運動「人の波作戦」



4月4日、春の全国交通安全運動に合わせ、レ・コード館前の国道において交通安全の街頭啓発活動「人の波作戦」が行われました。

当日は、交通安全推進委員会を中心として町内から団体関係者165人が沿道に並び、「スピードダウン」「シートベルト着用」などの啓発旗を掲げてドライバーや歩行者に交通事故の根絶を訴えました。

企業版ふるさと納税を活用し

㈱菅与が200万円を寄附



4月14日、秋田県横手市に本社を構え、宇太陽で北海道日高牧場を運営する㈱菅与（菅原一範代表取締役会長）より、当町が掲げる「産業振興の活性化によるまちづくり」に対して、200万円の寄附をいただきました。菅原会長は、「平成24年から新冠町に養豚農場を構え、以後、町にはお世話になってきたことから寄附させていただきました」と話されました。

シミズデイリーファームが 全国コンクールで受賞



日本草地畜産種子協会が主催する第11回全国自給飼料生産コンクールにおいて、字明和の清水秀人さん・香理さんご夫妻が経営するシミズデイリーファームが、農林水産大臣賞に次ぐ、農林水産省畜産局長賞を受賞しました。本コンクールは、全国から推薦された牧場を専門家が視察し、採草地の状況のほか、経営概要や地域活動などを総合的に審査して受賞者を決定します。

4月7日、清水さんご夫妻は鳴海町長を訪れて受賞を報告し、「受賞には驚いています。これまで取り組んだ結果を評価していただき、ありがとうございました」と話されました。



町内の小中学校で

入学式が行われる

4月8日、町内の小中学校で入学式が行われ、新冠小学校では29名、新冠中学校では46名の児童生徒が新たな門出を迎えました。

新冠小学校の入学式では、新1年生は在校生や教職員、保護者らの手拍子に迎えられ、6年生と手をつなぎながら入場しました。

新入生紹介では、担任の先生から名前を呼ばれると、新1年生は元気よく返事をしながら手を挙げ、その姿はとても微笑ましい光景でした。



新学期を前に新冠建設協会が 通学路などをボランティア清掃



4月2日、新冠建設協会（佐藤淑人会長・20社）は、道路のボランティア清掃を行いました。

この清掃は、子どもたちに気持ち良く登校してもらうと毎年行っている地域貢献活動です。会員は各地区に分かれ、冬期間に捨てられた空き缶などのごみ拾いのほか、路面清掃車などで道路脇にたまった砂の除去作業を行いました。

地域の交通安全を目指す

町交通安全指導員に委嘱状交付



4月3日、役場会議室で町交通安全指導員委嘱式が行われ、4名の指導員に委嘱書が交付されました。

委嘱された指導員は、児童生徒通学時間の街頭交通安全指導など地域の交通安全を目指す活動を行います。委嘱後、鳴海町長は「昨年度管内での交通事故死亡者がゼロとなったのは、皆さんの日々の取り組みの成果です」と感謝の意を表しました。

福祉分野4委員会構成員に

委嘱状を交付



4月14日、役場会議室で、保健福祉課が所管する委員会・協議会の委員に委嘱書が交付されました。

委嘱されたのは、「高齢者保健福祉計画策定推進委員会」「障害者計画策定推進委員会」「障害者自立支援協議会」「福祉有償運送運営協議会」の4会の委員で、今後、各委員会において管轄する福祉サービスについての意見交換が行われます。

認定こども園ド・レ・ミの園庭に

今年も大量の鯉のぼりが泳ぐ



4月22日、新冠町商工会青年部は認定こども園ド・レ・ミの園庭に約70匹の鯉のぼりを飾りました。

飾り付けは平成19年から始まり、平成24年からは新冠温泉周辺から認定こども園に場所を移して継続しています。奥山祐哉部長は「子どもの笑顔があるから継続できる。町民の皆さんも鯉のぼりを見て、楽しんでいただきたい」と話されました。